

## 平成 26 年度 学校関係者評価委員会報告

学校法人呉竹学園  
 呉竹医療専門学校  
 学校関係者評価委員会  
 自己点検自己評価委員会

学校法人呉竹学園 呉竹医療専門学校 学校関係者評価委員会は「平成 25 年度自己点検・自己評価報告書」の結果に基づいて学校関係者評価を実施したので、下記のとおり報告します。

## I 学校関係者評価委員

河原 保裕（公益社団法人埼玉県鍼灸師会会長／在校生父兄）  
 藤井 英之（藤井接骨院院長／在校生父兄）  
 高橋 知則（公益社団法人埼玉県接骨師会常務理事／在校生父兄）  
 古川 雅宏（呉竹医療専門学校呉竹会会長／卒業生）

## II 出席教職員

細野 昇（呉竹医療専門学校 校長）  
 八亀 俊一郎（呉竹医療専門学校 副校長）  
 川口 央修（呉竹医療専門学校 柔道整復科 科長）  
 小川 裕雄（呉竹医療専門学校 鍼灸科・鍼灸マッサージ科 科長）  
 畠山 博式（呉竹医療専門学校 鍼灸科・鍼灸マッサージ科 科長補佐）  
 坂本 収司（呉竹医療専門学校 鍼灸科・鍼灸マッサージ科 科長補佐）  
 坂本 辰徳（呉竹医療専門学校 鍼灸科・鍼灸マッサージ科 科長補佐）  
 本多 修二（呉竹医療専門学校 柔道整復科 科長補佐）  
 柏崎 勝（呉竹医療専門学校 事務長）  
 権田 良則（呉竹医療専門学校 事務長補佐）

## III 平成 25 年度自己点検・自己評価に対する学校関係者評価

評価項目	評価	評価に対する今後の学校の取組
教育理念・目的・育人材像等	学校の理念・目標・育人材像については明確であり教職員間で共有されています。学校の状況についても、校長や教職員による情報発信が頻繁になされ、学生・保護者・外部関係者が理解できる状況といえる。	開校 5 年目を経過し、提供している教育が目標としていた育人材に至っているか検証作業を行う。 保護者に向けた情報発信方法について再検討する。
学校運営	平成 25 年度より学校関係者評価委員会を組織し、自己点検・自己評価内容について開示するなど、これまで以上に情報開示を行うことが学校運営方針とされたことを大いに評価する。 職業実践的な方針を明確に示し、学校が一体となって取り組んでいることが理解できた。	職業実践専門課程として実技科目における企業連携を強化する。 学校関係者評価・教育課程編成委員会について継続的に開催し、その有効性を高める努力を行う。
教育活動	教育課程編成において外部業界・企業の意見を聴取され具体的に反映されていることは、社会ニーズに呼応	教員の意識改革・質の向上を目的とした研修プログラムの導入を検討する。

	<p>するとして学校の運営方針が具現化された教育活動となっている。</p> <p>教員の人材確保に努め、学内FD活動が推進され、成果を上げられることを期待する。</p> <p>シラバスをより学生目線で利用しやすいものに改訂してはどうか。</p>	<p>教員個々の研修実績の把握や研修計画策定に向けたシステム作りを検討する。</p> <p>開校5年を経過しており、シラバスについても見直し・改訂に向けて検討する。</p>
学習成果	<p>保護者からの協力を得ながら出席状況が不良となった学生への対応を行っている状況や、成績不良となった学生への補習体制・生活指導状況について理解できた。</p>	<p>3年生の保護者との連携を強化するため、保護者会及び個人面談の実施を予定する。</p>
学生支援	<p>従前の学生支援体制に加え、学生相談室が組織され運用が開始されていることについて評価する。今後は担当者のスキルアップに努める他、スクールカウンセラーの導入も検討されたい。</p> <p>学生の就職支援については、情報収集に止まっているように思えるため、企業説明会の在り方や業団連携による就職支援など検討されてはどうか。</p>	<p>担当者のスキルを高めるとともに、運営方法を工夫するなど学生相談室の充実に努める。</p> <p>企業説明会の実施時期・方法について再検討する。</p>
教育環境	<p>業団と学校の連携を強化する上で、出来得ることから積極的に行う必要がある。実践的教育効果を期待する。</p> <p>インターンシップについても時間をかけずに提案されてはどうか。</p>	<p>インターンシップに向けた学生指導、受入企業の確保・協議を進める。</p> <p>本年度は短期企業見学を実施し、学生指導の方法を検証する。</p>
学生の募集と受け入れ	<p>厳しい学生募集状況の中、学校の取り組みが一定の成果を上げていることは理解できた。</p> <p>尚、定員割れとなっていることから、大学志向の対策として学位授与システムの活用や大学への編入学制度の活用、社会人の募集に対しては、社会人向け職業体験会の実施なども検討されてはどうか。</p>	<p>学校情報の発信や高等学校におけるキャリア教育への参加をこれまで通り行う。</p> <p>社会人に向けた個別相談を充実させる（教育ローンや給付金制度など経済面のサポートを充実させる）。</p>
財務	<p>学校の特色を生かし、学生募集にも努力され、安定的な経営をされていることは評価できる。引き続き、安定した計画的な財務運営をされることを希望する。</p>	<p>安定的な経営となるよう、募集定員確保に向けて努力する。</p>
法令等の遵守	<p>学校での取り組みに対して特記する意見はありません。</p>	<p>継続的な職員教育・訓練を通じて、周知徹底に努める。</p>
社会貢献	<p>学園理事長を始め、校長以下教員における学校協会への貢献は甚だしく、同業養成施設のリーダー的の学校であると考えます。</p> <p>公開講座の継続的開催は、業界と学生との交流の場として大いに期待している。</p>	<p>これまで通り、公開講座の開講や関係団体への施設開放、柔道教室の運営を行う。</p> <p>学園祭で実施しているチャリティー事業において業団との連携を図る。</p>

#### IV 総評として

呉竹医療専門学校は実践的な職業教育を教育目標として開設され、運営されています。

今般の職業実践専門課程の認可は、これをより具体的に知らしめることとなったと考えます。

教職員の意識改革や教授力向上に向けた取り組みがなされるなど、更なる改善に向けて努力されています。

募集定員確保については厳しい状況が続いておりますが、経営母体における長年に渡る教育実績を生かし、安定した組織運営がなされています。

企業連携や関係業団との連携を推進され、さらなる実践的教育が行われることを期待します。